

ソウヤ
レイシシリ
地図面

松前成下
藤野繁太郎様行

宗谷運上家

宗谷地名物語

宗谷歴史探訪



昔、アイヌのひとびとは
ソウヤの地名を持って
移り歩いた

お話し
郷土史家 大橋幸男さん

宗谷の語源は弁天島に

ソウヤという地名の本元の場所は、宗谷場所のあるところ(現在の宗谷)じゃないんです。宗谷からさらに宗谷岬に向かっていくと、沖に玄武岩の突き出た岩盤の島がありますよね。弁天島っていつんですけれど。その島のところに掘割のようにくぼんでいるところがあるんです。深いもんですから、舟待ちするにはすくいい場所なんです。割と大きい船はあそこから樺太に向かったという船着場なんです。あれが、「ショヤ」、「磯島の」という意味の「ショヤ」が宗谷になるんです。そこは、舟係りにはいいい場所だったので、その土地の名前を持って今の宗谷のところにやってきたんです。

よい地名を持ち歩く

今の宗谷の場所は海が浅くて舟の底がつかえるんです。それでウエントマリ=悪い舟人間)とアイヌ又は言ってます。ウエントマリ川ってあるでしょう。それと同じで、よい地名をもって場所を移動するんです。

松前藩が宗谷場所を開いて運上家を建てたりして、きちんと長く維持するために平地のしかも広い場所が必要ですよ。ところが今、柵内サンナイ)と言ってる元の宗谷といったところはすぐ上が崖なんです。それで、もつと平らな場所に移動することになってウエントマリ)と言っていた現在の宗谷のところに地名を持っていくんです。それであそこに宗谷)という名前を付けた。

今の宗谷は海が浅いもんですから、沖に杭を埋めて、棧橋を出さなきゃいけない。結果的に宗谷が廃れていくのは、明治以降、汽船が稚内に入るようになったからです。汽船の時代になると港が浅いのは致命的ですからね。

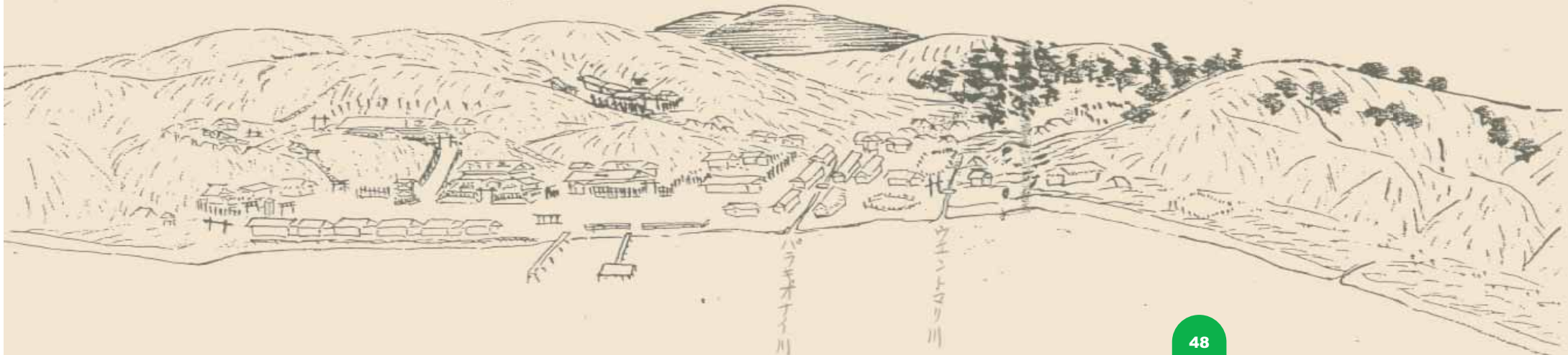
結局、宗谷の語源

は磯にある島)という意味の「ショヤ」が「宗谷」になまっていくんです。今の宗谷の場所はウエントマリ) = 悪い舟人間)ですから今流に考えれば、地名の言葉なんてどうでもいいと思っんですけど昔の人たちは忌み嫌ってますね。

稚内の語源になった
ヤムワツカナイ) =
冷たい水の湧く沢)

の本当のヤムワツカナイは、今の総合文化センターの裏。あそこ裏の沢がヤムワツカナイなんです。駅前の北洋銀行の辺りはシリクラエン)って、幽霊の出るところ)っていう意味なんです。だから、地名には一切使わないんです。アイヌの人たちはそんな地名なんかは絶対に残さないです。

申向
宗谷運上家
サナイ・妹
一里九六丁
春鮮夏リノ漁
御用所 役達
三秋田御陣家
二通行家 二棟
五堂場



宗谷港分間百間一寸
編集後記
もう何をやる気力も残って
丁卯六月廿二日 満朝四ツ八分
于登七ツ八分 いません。大変でした。(南野)
登カツ時ヨリ
夕セツ時ニ分見終